

HOPE^{plus}

[市立芦屋病院だより]



事業管理者 ♡ 就任のごあいさつ

市立芦屋病院 事業管理者 ^{みなみ} 南 ^{まさと} 正人

令和7年4月1日から、市立芦屋病院の事業管理者を拝命しました南 正人と申します。

令和4年4月から3年間、病院長の任にありましたが、あらためてご

挨拶を申し上げます。

市立芦屋病院に着任するまで、呼吸器外科医として30年以上を過ごした大学病院と、地域医療を支える芦屋市唯一の公的医療機関である市立芦屋病院では、来院される患者さんのご年齢や社会的背景、求められる医療内容が少し違いましたが、幸いなことに私は、芦屋市で生まれ育ち、両親が在住しており **あいちゃく** **したしみ やるき** で臨みました。

3年間、私自身は主に呼吸器を診る医師として診療にあたりながら、各診療科の医師、全部門の職員の皆さんと協力し「ここがあってよかったと思っただけのような病院」を掲げ、市民の健康と生命を守る病院として、医療の充実に努めてまいりました。

さて、平成24年に完成した新病院は、病床数を272床から199床とコンパクトにし、全体の3分の2を個室とし、地域と時代にマッチしたものにするなど、時代を先取りした経営改善に取り組み、成果を上げてきました。しかし、令和6年度の診療報酬改定や、エネルギー費・材料費・人件費などの高騰により、公的病院の経営は全国的にこれまで以上に大変厳しいものに陥り、市立芦屋病院も例外ではありません。

一方で新型コロナウイルス感染症の大流行の際は、当院では早々に帰国者・接触者外来を開設し、罹患患者さんの入院の受け入れをおこない、地域の医療機関からも頼っていただける体制を確立しました。「ここがあってよかった」と思っただけのような病院であったと自負しております。今後も新たな新興感染症への対応も視野に入れながら、さらに増加するご高齢の皆さん

の内科・外科疾患への対応を含め、当院の専門性を發揮して質の高い医療を提供してまいります。

「市立芦屋病院 経営強化プラン」の重点取組事項として「がん対策の強化：消化器内科と外科に加え、血液内科、腫瘍内科、緩和ケア内科が連携」「救急医療のさらなる充実：24時間365日体制の“ことわらない”内科・外科系二次救急。市内唯一の小児入院医療機関としての小児救急」「超高齢社会への対応：脳神経内科による認知症・脳卒中、循環器内科による心不全診療」

「地域医療への貢献：地域連携室を窓口とした地域の医療施設、介護施設との連携」などを挙げています。

重責に身が引き締まりますが、経営責任者として、あらためて緊張感を持ちながらも“HOPE”いっぱいに取り組んでまいります。難しい局面を乗り越えてゆくには「芦屋市に“なくてはならない”病院」として、何よりも市民、地域の皆さんの“HOPE plus”とご理解、ご支援が不可欠です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

略 歴

- 1982年 大阪大学医学部卒業
大阪大学医学部附属病院 研修医
- 1983年 国立療養所愛媛病院外科勤務
- 1986年 大阪労災病院外科勤務
- 1988年 大阪大学医学部第一外科 研究生
- 1990年 大阪大学医学部附属病院 医員
- 1991年 大阪大学医学部 助手
- 2007年 大阪大学医学部附属病院手術部 助教
- 2008年 大阪大学医学部附属病院手術部
副部長・准教授
- 2012年 大阪大学医学部附属病院手術部
部長・病院教授
- 2021年 大阪大学医学部附属病院手術部
部長・特任教授
- 2022年 市立芦屋病院 病院長
- 専門分野 呼吸器外科 移植医療 手術医学 医療機器



病院長 ♡ 就任のごあいさつ

みずき まさお
市立芦屋病院 病院長 **水木 満佐央**

令和7年4月1日から、市立芦屋病院の病院長を拝命しました、水木 満佐央と申します。

私は、1986年に大阪大学医学部を卒業後、大阪大学微生物病研究所附属病院(微研病院)内科で血液内科、腫瘍内科を中心とした診療を開始しました。1993年に大阪大学医学部附属病院(阪大病院)と微研病院との統合により、阪大病院の血液・腫瘍内科に異動後は、同診療科で現在に至るまで血液内科の診療を中心におこなってまいりました。あわせて、2006年に外来で抗がん剤治療をおこなう部門である化学療法部の責任者となり、年間13000人余りの患者さんの抗がん剤治療・免疫疾患治療を安全に快適に提供することに尽力するとともに、オンコロジーセンターの副センター長として阪大病院のがん診療の推進、がん診療に関わる各種専門職の教育にも関わらせていただきました。以上のように医学部卒業後の計36年半の間、大阪大学の附属病院にて一貫して血液内科とがん診療に携わらせていただきました。

また、大学時代は山岳部で六甲山の周囲の岩場へ練習に通い、芦屋ロックガーデンにも月1、2回は登っておりました。芦屋にはたくさんの思い出がございます。六甲山の麓の風光明媚な市立芦屋病院で勤務させていただくことを大変有り難く存じております。

本年は阪神・淡路大震災から30年の節目に当たる年ですが、当時の市立芦屋病院の対応状況が市立芦屋病院誌第2号に詳細に記載されています。未曾有の被害の中、すべての医療従事者、事務職員とともに院外からも多くの方々の協力のもと、皆さんが全力で対応されたことを知ることができます。この時の対応が、現在の病院の施設整備及び、大規模災害時に対応可能な地域ネットワークの構築に生かされていることと存じます。

令和元年から始まった新型コロナウイルス感染症

によるパンデミックにあっても、当院は早くから帰国者・接触者外来を開設し、患者さんの入院の受け入れをおこない、地域の医療機関と連携して公的病院として頼っていただける体制を構築しました。そして、大きな院内クラスターや医療崩壊に陥ることなく、病院機能を維持することができました。こちらでも感染症専門の職員を中心として、職員全員の協力体制があればこそのもので存じます。

以上のように、災害時や緊急時に存分に発揮されてきた職員全員の素晴らしい力をあわせることで、市立芦屋病院の病院理念である

あい(愛) しあわせ(幸福) やさしさ(優しさ)のもと、常に芦屋市民の皆さんの健康と生命を職員の皆さんと一丸となって守っていく所存でございます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

略 歴

- 1986年 大阪大学医学部卒業
- 1986年 大阪大学微生物病研究所附属病院 内科研修医
- 1988年 大阪大学微生物病研究所附属病院 内科医
- 1993年 大阪大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科医
- 1996年 大阪大学助手医学部 血液・腫瘍内科医
- 1998年 ドイツ ミュンスター大学医学部 血液学/腫瘍学 (Wissenschaftlicher Mitarbeiter)
- 2001年 大阪大学医学部 血液・腫瘍内科助手
- 2003年 大阪大学医学部 血液・腫瘍内科講師
- 2006年 大阪大学医学部附属病院 准教・部長(化学療法部)
- 2007年 大阪大学医学部附属病院 病院教授・部長(化学療法部)
- 2008年 大阪大学医学部附属病院 オンコロジーセンター副センター長
- 専門分野 血液内科 腫瘍内科

脳神経内科の紹介

かたおか せいこ
脳神経内科 部長 片岡 政子

当院の脳神経内科では2024年10月より常勤医として 上田 周一 特任部長 を迎え、常勤医 2名、大学病院からの非常勤嘱託医 3名の神経内科専門医で外来、入院の診療をおこなっています。

脳神経内科では脳卒中、脳炎・髄膜炎、ギランバレー症候群、てんかん、パーキンソン病をはじめとする神経難病、認知症疾患、頭痛、不随意運動などの神経内科領域疾患一般の診療に携わっています。

高齢化社会では、脳卒中、神経変性疾患(神経難病)、認知症疾患、てんかんが急増します。これらの疾患では、発見・診療開始の遅れ、独居生活の破綻、介護負担の増大、自動車運転免許の可否の問題など社会問題として取り上げられる機会が多くなりました。

当院では高齢者が多い芦屋市の地域特性に対応し、高齢者の脳神経内科疾患に関しては、かかりつけ医、サポート医と連携しつつ、患者さんが適切な環境の中で療養できるような体制での医療に力を入れています。

診療にあたっては、早期診断、適切な治療、リハビリテーションがおこなえるよう努めています。

また、医師、看護師、リハビリテーション、医療相談員など多職種が様々な側面から介入させていただくことにより患者さん、ご家族が安全で、安心して神経疾患をフォローアップできるよう心がけております。



左:上田 周一 特任部長 右:片岡 政子 部長

当科外来は完全予約制で、予約の窓口は地域連携室となっています。

受診希望の際は、

下記①②いずれかをおこなっていただいた上で必要に応じ外来予約をお取りいたします。

- ① かかりつけ医とご相談の上、
地域連携室に紹介状を送っていただく
- ② 患者さん、ご家族が
直接地域連携室にお越しいただき、
医療相談を受けていただく

新任Drのご紹介



消化器外科

肝胆膵外科
胆嚢 ヘルニア

まつもと けんいち
松本 謙一

先生から一言！

これまで肝胆膵癌の手術と、急性胆嚢炎、ヘルニアといった良性疾患に対する腹腔鏡手術を主におこなってきました。特に腹腔鏡下胆嚢摘出術は得意とするところです。

食後の右上腹部痛に悩んでおられる方、ご相談ください。

新任Drのご紹介



緩和ケア内科

緩和ケア

たけだ あい
武田 亜衣

先生から一言！

患者さん一人ひとりの価値観を尊重し、共に病に向き合う医療を目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

認知症ケアチームの紹介

認知症看護認定看護師 津久茂 康予 つくも やすよ

日本は世界がこれまでに経験したことがない「超高齢社会」を迎えています。

超高齢社会の重要な課題のひとつが「認知症」です。認知症を患う人は、2030年には800万人を超えると推測されています。高齢者や認知症を患う人は、入院という環境の変化への適応が難しくなります。入院環境はベッドやトイレの場所、1日の時間の流れなど入院前の環境とは大きく異なります。このような環境の変化に適応できず、不安や恐怖を感じる場合があります。また、認知症がなくても、病気の影響や環境の変化のため、一時的に認知症のような症状が出ることもあります。混乱や興奮、眠れないなどの症状が現れ、治療が思うように進まなくなってしまうことも少なくありません。

認知症ケアチームはこのような患者さんに対し、専門スタッフが病棟の看護師と連携し、薬の調整や生活リズムを整えるなど、安心して治療を受けることができ



認知症ケアチーム

るよう環境調整をおこなっていきます。チームメンバーは多職種で構成されており、専門分野を生かし治療や看護ケアを共に考え、入院生活を穏やかに過ごせるよう支援していきます。また、地域との連携を図り、退院後の生活を整え、安心して帰られることを目指して活動していきます。

2025年度上半期 芦屋病院公開講座のご案内



〈時間〉午後2時～3時30分 〈定員〉100人 〈受講〉200円(1回)

日 時	場 所	内 容	講 師
4月12日(土)	別館2階 音楽室	緩和ケア病棟について	緩和ケア内科 河野 真揮枝 医師
5月10日(土)	芦屋市民 センター 401室	血液がん治療について	血液内科、腫瘍内科 安見 正人 医師
6月14日(土)		胃腸を元気にいきいき長生きするには!?	消化器内科 瀬戸 華世 医師
7月12日(土)		心臓の豆知識	循環器内科 北川 泰生 医師
8月 2日(土)		薬剤について	薬剤科 見田 秋与志 薬剤師

あしや健康フォーラム ※開催時期、会場については改めて掲載予定

- 直接会場にお越しください。 ※感染症の影響や天候不良に伴い、講座を中止する可能性がありますので確認をお願いします。
- 問い合わせ先：芦屋市立公民館 〒659-0068 業平町8-24 TEL:0797-35-0700

※4月のみ401室が改修工事のため会場が変更となっています。

市立芦屋病院 ご案内



■公共機関をご利用の方へ

- JR芦屋駅から
 - バス 約15分
 - タクシー 約5分
 - 徒歩 約30分
- 阪急芦屋川駅から
 - バス 約20分
 - タクシー 約5分
 - 徒歩 約35分

● 病院ネットワークバスもご利用ください 無料

市立芦屋病院の理念

〈病院理念〉

あい(愛)・しあわせ(幸福)・やさしさ(優しさ)

〈基本理念〉

芦屋市の中核病院として 地域社会に貢献します
患者の意思を尊重し 最善の医療と癒しを提供します



日本医療機能評価機構 認定施設(3rd G: Ver. 2.0 一般病院2)

市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1

TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822

H P: <http://www.ashiya-hosp.com>

